

研究過程

回	期 日	講師（助言者）	テーマ及び内容	会 場	人数
1	5月21日(水)	阿部直美先生 (乳幼児教育研究所所長 ・絵本作家)	保育の流れを考える手あそび・リズムあそび	エポック なかはら 大会議室	135名
2	6月18日(水)	神田浩行先生 (環境共育事務所 K&K プランニング代表)	幼児環境教育プログラムを体験しよう	エポック なかはら 大会議室	124名
3	9月10日(水)	幸福花江先生 (横浜市社会福祉協議会障害者支援センター巡回相談員)	特別支援教育	総合自治会 ホール	105名
4	10月22日(水)	平田智久先生 (十文字学園女子大学教授)	教師の役割	国際交流センター レセプションルーム	91名
5	11月19日(水)	舘 紅先生 (しらこぼと幼稚園園長)	保育の実践 —劇あそび—	エポック なかはら 大会議室	78名
6	1月21日(水)	細田淳子先生 (東京家政大学教授)	教育要領と指導計画 —音楽的表現活動を一例として—		

◆研究参加園（47園）◆

江 川 幼 稚 園 川崎ふたば幼稚園 川崎さくら幼稚園 若 宮 幼 稚 園
 東 三 輪 幼 稚 園 竹 園 幼 稚 園 ゆりかご幼稚園 浅 田 幼 稚 園
 梅 園 幼 稚 園 み ゆ き 幼 稚 園 小 峰 幼 稚 園 白 山 幼 稚 園
 鹿 島 田 幼 稚 園 す む の え 幼 稚 園 サ ク ラ ノ 幼 稚 園 平 間 幼 稚 園
 太 陽 第 一 幼 稚 園 太 陽 第 二 幼 稚 園 宮 内 幼 稚 園 つ ぼ み 幼 稚 園
 大 楽 幼 稚 園 洗足学園大学附属幼稚園 若 竹 幼 稚 園 た ち ば な 幼 稚 園
 津 田 山 幼 稚 園 梶ヶ谷幼稚園 新作やはた幼稚園 川崎たまがわ幼稚園
 宮 前 幼 稚 園 有馬白百合幼稚園 初 山 幼 稚 園 サ レ ジ オ 学 院 幼 稚 園
 ひ ば り 幼 稚 園 潮見台みどり幼稚園 宮 崎 台 幼 稚 園 丸 山 幼 稚 園
 カ リ タ ス 幼 稚 園 菅 幼 稚 園 東 菅 幼 稚 園 桐 光 学 園 み ど り 幼 稚 園
 玉 川 幼 稚 園 桐光学園寺尾みどり幼稚園 ル ミ エ ール 幼 稚 園 柿 の 実 幼 稚 園
 川 崎 青 葉 幼 稚 園 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園

第1回 中堅教諭研修会

月 日 平成20年5月21日(水)

場 所 エポックなかはら 大会議室

講 師 阿部 直美先生(乳幼児教育研究所所長・絵本作家)

テーマ:「保育の流れを考える手遊び、リズム遊び」

俯瞰図番号 E5 - II E6 - II

【プログラム】

①「1丁目のドラねこ」

(「むすんでグーひらいてパー」乳幼児教育研究所著)

- ・基本の1人で行う指遊びから、となりの人と2人組を作って相手とのスキンシップを取り遊んでいく方法、最後は1列になって、クラス全体で遊べる方法に発展していく。段階を通し、学年によって遊び方の違いを工夫していく方法。

②「たいやきたこやき」

(「手あそびアイランド No. 1」乳幼児教育研究所著)

- ・手の出し方→たいやきの時はパー
たこやきの時はグー
間違えずにたいやきとたこやきの手を出すことを楽しむあそび。
だんだんスピードアップしていくことで、盛り上がっていく。

③「かたたたき」

(「手あそびアイランド No. 1」乳幼児教育研究所著)

- ・2人組→肩をたたく孫役
肩をたたいてもらう祖父母役に分かれて行う。相手と顔を見合わせたり、相手とのやりとりを楽しむあそび。配役は歌がすべて終わったら交代して楽しんでいく。

④「こんやはごちそう」

(「手あそびアイランド No. 2」乳幼児教育研究所著)

- ・教師が先出した言葉や動作に子ども達が続いていく。教師が行うことを真似していくため、教師がダイナミックなアクションで子どもに期待感を持たせていくことが大切。2人組で教師役と子ども役を行い、交代してそれぞれの役割の楽しさを味わう。

⑤「じょうぶなイスです」

(「手あそび山やっほーっ」乳幼児教育研究所著)

- ・2人組→イス役
イスに座る人
人の役がイスを作り、最後にイスに座るふれあい遊び。手遊びの後にイス役の人は先生が5秒数えたら、座っている人役の子どもを捕まえる。どんどん早くして捕まらないようにスリルを楽しむ。役は交代して行っていく。

⑥「とっきゅうでんしゃにのって」

(「手あそび山やっほーっ」乳幼児教育研究所著)

- ・遊びの中で「特急券～枚」と言われた枚数のグループを作る。グループになった子はそのまま電車として目的地まで走る。グループができなかった子どもは木の役として電車が走る時の援助を行う。みんなが参加型で、数の認識にもつながり、年長さん向けの遊び。

⑦「ピーマンマンの絵本」

(さくらともこ著 PHP 出版)

- ・オペレッタから生まれた絵本。食育につながる。絵本から派生して「ピーマンマンたいそう」につなげる。
1つの教材を通して遊びを広げていく。

研修会

- ⑧「ピーマンマンたいそう」
- ・途中で自由表現を入れていく。体操のメリハリをつけて1つ1つの動きをはっきりしていくことが大切。

- ⑨「ちっちゃな王様王女様」
（「むすんでグーひらいてパー」乳幼児教育研究所著）
- ・2人組→大人が子どもをおんぶする親子遊び。
大人は馬や亀になって子どもを乗せる。なりきって遊ぶことが大切。

- ⑩「うちゅうじんとおはなし」
（「手あそび山やっほーっ」乳幼児教育研究所著）
- ・2人組で行う。最後に同じ手の面を出せばよい。（1人が手の甲を出したら、相手も手の甲、手の平を出したら、手の平）相手の心理を読み取るおもしろさ。

- ⑪「すすめジャンケンレンジャー」
（「ぐっころりん」乳幼児教育研究所著）
- ・2人組で行う。ジャンケンをして勝負をつけ、負けた方はひざまずき、勝った方は勝った時に出したグー、チョキ、パーいずれかでチームをする。ジャンケン遊びが楽しめる手遊び。

- ⑫「おしゃれなワニさん」
（「むすんでグーひらいてパー」乳幼児教育研究所著）
- ・2人組で行う。
6月に梅雨時期に行うと良い。動きがあり、ワニ役になり、電話でのやりとりになりきって楽しめる遊び。

◎手遊びは新学期になかなか輪に入れない子どもを意識しすぎてしまうと、せっかくの手遊びの流れが止まってしまうので、楽しんで

いる子どもを更に引きつけて注目できるような言葉がけや声色で行うことで、輪に入らなかった子どもも注目していく。

◎手遊びはただ、おもしろければいいものではなく、後から「たのしい！」「こんなこともできる！」と感じるものであると同時にメロディーも大切なので、音を楽しめるものを選ぶ。中堅として、新しいものを取り入れ、保育がマンネリ化しないようにする。

第2回 中堅教諭研修会

月 日 平成20年6月18日（水）

場 所 エポックなかはら 大会議室

講 師 神田 浩行先生

【環境共育事務所K&Kプランニング代表】

テーマ：幼児環境プログラムを体験しよう

・コミュニケーションの意味～地球意識をもつ

俯瞰図番号 E4 - II

○自然体験についての写真を見る〈スクリーンにて〉

○グループづくり

- ・中堅教諭研究会と合同のため、人数が多く、いもむしジャンケンをして16人前後のグループを作る。

○ゲーム

- ・グループの代表が動植物になる。グループの他の人は「YES or NO」で答えられる質問をする。質問は10回まで。答えを言っていない。わからないところは質問を続ける。
- ・一斉にグループの人が答え、代表は「YES or NO」で答える。

→あそび集のP49『私はだれでしょう』をアレンジしたもの。P83の身近な動植物の中から種類を選んだ。

〈講師より〉

- ・子どもが行う時の留意点などを思いついたら感想の用紙に記入。あそび集にも書き込んでおくと良い。

○環境教育の概要

(環境は地球規模の問題になり私達の生活によって全て影響している。)

- ・環境悪化するのは私達の責任である。
- ・ecoに取り組むのは大人の環境教育である。幼稚園では自然との触れ合いを通して豊かな感受性、愛情、自然とつながりの気持ちを育てるため、自然観・地球観を育てる。

P1のあそび集を通して育みたい子どもの姿のねらいをもっている。

○グループワーク

- ①写真を見て1人1人がタイトル、ストーリーをつくる。
- ②全員で話し合っって1つの物語を作る。(グループ毎に違う写真が配られる)

○グループ発表

- ・各写真につきグループ発表。

〈ハチ〉「戦場へ行く男」

パトロールをして、針に指されると悪い人が良い人になる話。

〈メダカ・水カマキリ〉

水カマキリがメダカを食べようとする話。

〈あり〉「アリのサバイバル日記」

仲間にエサをもらって生きていたことを実感する話。

〈ちょう〉「迷子の蝶々、シロ」

蝶々が母を探してかえるやアジサイやカタツムリに聞いて母をみつける話。

〈とんぼ〉「とんちゃんの日」

蝶々とかくれんぼをしているところに羽根を使わずに歩こうと挑戦する話。

〈みつばち〉「あまいみつを求めて」

みつを求めて仲間と探しにいくが、造花にた

どりついた話。

〈講師より〉

- ・子どもたちは自然との交流を深めていくことが重要。部屋の中でも身近な自然を感じられるような手段を紹介した。
- ・直接触れるだけでなく、想像することも大事。→あそび集P 66 のみんなで作家
- ・重要なことは自分の意見を伝えられたか、人の意見を受け入れられることが出来たか、という「コミュニケーションのとり方」である。

○ドラマ「CHANGE」を見る

〈講師より〉

- ・自分を認め、相手を認め、人と人とは違う。それを知ることが大切。自然環境も同じ。私たちが相手のことを知らずに行ってきたことの結果である。環境問題は大人の問題であるが、子どもの頃から自然と触れ合い、自然観を持って欲しい。また大人はこのことを受けとめ、環境問題も考えて欲しい。

〈まとめ〉

大事なことは身近な自然に触れるということ。室内でも写真を見たりして自然に触れることが出来る。またコミュニケーションを幼児期からとることによって人と自然と触れ合えるような人になるように。

○川崎市梅園幼稚園で行われた環境保育についてのニュースを見る

環境問題が重要になっているため、取材も来ている。

第3回 中堅教諭研修会

月 日 平成20年9月10日(水)

場 所 川崎市総合自治会館 ホール(1F)

講 師 幸福 花江 先生

(横浜市社会福祉協議会

障害者支援センター巡回相談員)

テーマ:「特別支援教育」

俯瞰図番号 D3 - II D4

【川崎市幼稚園の統合保育の取り組みについて】

1981年国際障害年から統合保育が行われるようになる。

川崎市内の統合保育のアンケートより20～30年前から実施している園は32%もある。実施園は83.7%で71園。ただ園に入ってから、診断されたりまだ診断されていない子ども数に含んでいる。診断されている子の中では、自閉症が一番多く、152人中71人。

準障害児(気になる子)は、1クラスおおよそ5人。年長の男児に多く見られる。

幼児教育相談室療育はセンターに行くのが抵抗ある方々の利用が多い。30園97人利用。

【幼稚園で気になる子】

幼稚園の中で気になる子というのは、実際の年齢、時期よりも発達が遅いということであり、そのことは誰のせいでもない。

一過性(弟や妹が生まれたりする環境変化)のものや生来的なものなのか。生来的なものは発達の特異性に起因すると思われる。集団の中で周りを見て学習していくが、いつまでも同じ行動を繰り返していて周りとは異なる。定型発達とは違う。今までの生育歴を聞くとわかることもあるので、保護者との話も大切だが、発達の違いをきちんと伝えていくことが大切である。保育者の勘も大切だが、善し悪しでの判断をしてはいけない。

子どもがどういう位置にいるのか、その子どもの状態や傾向を知っていく上で数値は大切であり、それが根拠で指導していくことができる

が、レッテルを貼ってはいけない。その子がそういう特徴を持っているということ。

保育者も自分の保育がいけないと思ったりしない。保育の枠の中に収まらないこともあることを知っていく。また特効薬はないが、キーマンは親と保育者である。正しい理解と対応をしていくことが大切である。

【幼稚園などで集団における対応、支援】

①視覚的に情報を伝える。

言葉だけではなかなか伝わらず、難しいということを理解しておく。視覚的に注意をひかせ、情報を与えていく。このことは健常児にもわかりやすい。

②見通しが持てればすすめる

スケジュールの提示をすること。このことはすべての子どもの安心にもつながる。

③暗黙の約束も目に見えるように具体的に絵や字で表し、パターンの記憶、経験した記憶を繰り返していく。

毎回どうするべきか伝えることも大切になる。簡潔に言葉や視覚から伝えていくこと。特に好きではないことはなかなか取り組めないで、その子の気持ちをくみながら、約束などを確認しながら取り組んでいく。

④成功体験を増やしていく

できることを増やして、できないことは手伝っていったり、良しとすることも大切。自信をつけていくことが意欲につながっていく。

当たり前のことや普通のこと一言ほめたり、話をしていくことで「これでいいんだ」と子どもの中に身に付き、自信になるためにきっちり伝えていく。

*保育室は色々なものが貼ってあるために注意力散漫になりがち。モデルになる子どもの近くや保育者の近くに座るようにしたり工夫が大切。

→特別支援教育ガイドの資料から対応を見つ

けていくこともできる。

(インターネットからダウンロード可能)

【個別指導計画作成に向けて】

平成 19 年から特別支援教育が動いている。また個別の指導計画を作ることで、1 人 1 人の目標や支援の手立て、次の学年や学校へ引き継ぐ資料となる。これは保護者との相互理解や見直しも大切になる。

→実際の個別指導計画に向けて資料を頂き、見ていく。

*ポイントをしぼって項目ごとに 1 年通して作っていき、それぞれの項目 1 年の成長を見る。

↓

サポートノートを保護者が持ち、学校に進学する際に持っていき見てもらいながら、学校へつなげていく。また記入欄に書いていくことで手だてを伝えながら、指導が見えていくことが大切になる。

【保護者との関わり（つながり）について】

92%の先生たちは「むずかしい」と感じている。保護者とうまくいっていないと感じている先生が 16%である。

子どもと向かい合っていない方や不安が多いお母さんが増えている。教師も保護者と保育者という立場の違いは理解しておくことが大切。信頼関係というのはすぐに築いていけない。お母さんに「大丈夫」という言葉は安心につながるが、どういうところが「大丈夫」なのか伝えていく。

保護者も心配がある。伝える時期は教師の意見を押し付けたり、推測などで診断名を口にしてはいけない。1 人で伝えるのではなく、主任や園長も一緒に伝えていく。伝え方も、「こんなところが苦手」など言葉に気をつけていく。立ち話ではなく、一定の時間を作って、できれば学期に 1 回は行えると良い。

記録を活用しながら、行ってみたことで変

わったことや変わらないことを伝えていく。

焦らずに保護者と向き合っていき、保育者もお母さんが気づいていけるように、保育者の園での指導の仕方についても相談室で聞いてきてもらう形をとること（園で行っていることでうまくいかないことの対応の仕方の見直しなど）で相互理解も深まっていく。

【子どもたちへの伝え方】

周りの子どもたちにも、クラスの仲間として、その子どもの良いところがあることや他のみんなにも良いところがあるがいけないところや苦手なところもあることを伝えて、その子どものいけないところや苦手なところを伝えて、どう助け合っていくか話し合うきっかけにしてい

く。教師の態度が子どもに伝わることを忘れずに接していく。

周りの保護者に懇談会などで話す中で、診断名を伝える必要はない。苦手な部分を話していき、担任はフォローしながら保育していくことを伝え、周りの協力もお願いしていく。

* 幼稚園や保育園などの集団の生活は、幼児期の子どもが人との信頼を作っていく場である。障がいを持つ子どもとの付き合い方を幼児期に学ぶことで、人とのつながりが広がり、信頼も強くなっていく。教師自身がきちんと仲立ちをしていくことが大切である。

第 4 回 中堅教諭研修会

月 日 平成 20 年 10 月 22 日 (水)

場 所 国際交流センター

レセプションルーム (1F)

講 師 平田 智久先生(十文字女子大学教授)

テーマ:「教師の役割」

俯瞰図番号 B 1 - II B 2 - II

【幼稚園での中堅の立場】

先輩として、後輩に頼りにされたり、先輩の

研修会

教師の片腕となり、大変な存在ではあるが、幼稚園の方向性を一步踏み出すために頑張る存在でもあり、人間関係を豊かにするために必要な存在である。

【保育の二重構造】

1. 「子どもに寄り添って」行うこと

2. 「教えなければ」ならないこと

→ 4月からの行事や製作内容を見直し、チェックすることで保育は変わる。カリキュラムにあることも、段階的にできているか見直す。

例えば…製作面では入園や卒園プレゼントや母の日や父の日、敬老の日などのプレゼント製作、行事などの絵についてはすべて

→ 「教えなければ」ならないことにつながっている。この中で「なに」が育っていくのか。子どもたちは決められた枚数のものを使い、決められたものを作る中で、子どもたちの意欲を引き出していくことができるのか？大切なことは子どもの意欲を引き出し、興味・関心に寄り添うことではないか。

⇒子どもの興味・関心に寄り添えるようにする方法を考えていくのは、保育者の演出である。ひとりひとりが違うことを怖がっているために「みんな同じ」ものを作る「教えなければ」という教育に偏りができるのではないか。1人1人は違うことを認識することからスタートすることで、出来栄の差を気にするだけでなく、1人1人の個性を尊重できるのではないか。

【領域「表現」について】

感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力

を養い、創造性を豊かにする。

《ねらい》

(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。

(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

→ 20年間変わっていない。感性は1人1人違うので、「目的」を達成するために打ち合わせなどをしていくが、今は教師も弱くなっている。子どもの実態や親の実態を知り、教師も内側を変えていく。

【内的循環】

内的循環とは情報や刺激が入ると、それを感覚器官で感じ、考え、思ったことを行動で言葉や身振り、音などで表現して行動していくこと。この一連の流れのことであり、感覚器官や行動で、どう思い、考えて行動パターンがたくさんあることで感性豊かになる。内的循環を使うと考えるもとになる、頭の心でもある前頭葉は発達し、いわゆる暴力的な行動をとることがなくなる。内的循環を育てていくことが大切である。

砂場やブロック遊びはこの流れを使うものである。

感じて→考えて→行動する

これが学習である。

【表現】

表現とは、表＝意思、聞く耳をもつこと

現＝無意識だが、感じ取る、読み取る。

表現するには近くに感じてくれる人がいることが大切であり、お互いに影響しあい、相手がいることで表現できる。

*表現することは、表現する過程を大切にすること。

表現までに至る心の動き、また表現する人はそれまでの過程（年齢、性別、興味や関心、経験の有無、体調や心持ち）この違いがそれぞれの「個性」につながり、同じ答えが出ないことにつながる。

【子どもの絵の観点】

「お」 穏やかな線（幸福な生活）

「お」 お話がいっぱい

（あのね…が聞こえてくる）

「こ」 心があふれている

「ね」 年齢にふさわしい

「こ」 個性がある

【子どもの絵】

・ 人間らしく育つために欠かせない

→絵を描くことで前頭葉を活発にし、自分で考え行動できる人に育つ源を作る。

・ 生活を豊かにする

→行動することで生活を豊かにしていく。

・ 人を大事にする

→絵を描くことでお友だちとの共通点を見つける楽しさ、人と違う誇りを持つ。

* 囚（あなた＝保育者）が囚（子ども）を囚（人間）にする。

【実際に遊ぶ】

新聞紙1枚を使う。

①持ち上げて、より早く丸めてみる

→「丸めてみる」ことが人によってぐしゃつと丸めたり、棒状にするなどの違いがある。

②棒状にして二人組で競う

☆どちらがより細いか、太いか

→太いほうが勝ち！

☆どちらがより長いか短いか

→長いほうが勝ち！

☆どちらが皺くちゃかきれいか

→皺くちゃの棒が勝ち！

*子どもの年齢に合わせてできること年齢によって変えておこなってみるとよい。

棒を作ることは協応動作、お団子作りやボタンを留める、ひもなど結ぶことにもつながっていく。

③やぶく

何回か破く中で面積が大きいものを破いていく。破いて面積が小さいものは横に置いておく。

④形作り

③で破いたものの中で、小さい面積で横に置いたものの中から面積が一番大きいものと次に大きいものを組み合わせて形を作る。

必要な部分に色紙やサインペンを使い、わかりやすくしていく。（3分以内に行う）

⑤発表

各自の作品を壁に貼り出す。貼り出してから、作ったもので分類していく。

魚や動物では種類によって分類し、お互いが話をして交流する場面やお互いの作品を見せ合う場になる。その他もたくさんあり、その他の中でも協力して貼りかえていく姿がある。一緒に考える場になっている。

*製作も決まった形のものだけでなく、幼稚園生活3年かけて子どもに寄り添う形の時間を作ることが大切である。

このような製作の時間の提案をしたり、園を変えていけるのは園や周りのこと、父母のこともわかる中堅の教師たちである。子どもは友だちの反応で、育ちあい認め合う。クラスの中でちょっとから始めて行き、活動を広げていく。表現という活動が園の活動の充実をはかるものにつながる。

第5回 中堅教諭研修会

月 日 平成20年11月19日(水)

場 所 エポックなかはら 大会議室(7F)

講 師 館 紅 先生

(しらこぼと幼稚園 園長)

テーマ:「保育の実践」—劇あそび—

俯瞰図番号 E5-II E6-II

【ごっこ遊びと劇ごっこ】

幼稚園の中で、館先生自身の体験談。かるたがないのにかるた取りををする真似をして楽しむ子どもたちの姿を見て、子どもにかるたを渡すと「ごっこ遊びをしていたのになあ」とがっかりした反応。子ども同士で遊びを展開することを楽しんでいたのに、必要以上に関わっていることを反省したという事例。

☆ごっこ遊び—社会認識、社会のルールや仕組みを学ぶ

☆劇ごっこ—クリエイティブ、創造性を育てる

→育つものの違いを認識する。理解していないと保育者のおしつけの遊びになってしまう。

【劇ごっこ】

発表会で子どもにさせるものになりがちだが、日ごろの保育の中で劇ごっこにできることがある。それを見つけていくことで劇ごっこに発展する。

同じような遊びの中でも、年齢によって、遊び方が変わる。年齢により集中の違いがあることも考慮する。無理させる保育にならないよう、教師自身も遊びを体験して参加することが大切である。

劇遊びだけでなく、日頃の遊びの中から見つけ出し、言葉かけをしていかないと人とのやり取りが成立しないことがわかる。それにより、「声を出そう」と劇の中でも声をだすことにつながる。子どもたちの感性の育ち合いでみんな

の遊びが広がる。

【遊びの実践、具体的な劇】

①「赤ずきん」

赤ずきんの話を確認する。登場人物や、お話、ドアを叩いたり、動き。

大切なことはセリフのやり取り。

「遊び方」

2つのグループに分かれ、1つのグループは壁際に座って見ている。1つのグループは赤ずきん役、教師がオオカミの役になり、赤ずきんがオオカミに近づいてセリフのやり取りをしていく。オオカミが「お前を食べるためだ」と叫んだら、座っている人の膝に座る。このときに座る人は何人膝に乗っても構わないルールで行う。

→劇ごっこは「楽しむ」もの。この動きは瞬発力、感性、動きを楽しむことができ、5領域の大半を使って遊べる。

②「3匹のこぶた」

まず教師は母としてナレーションをする。こぶたに呼びかけ、おうちを何で作るか聞いていく。

長男はわらのおうち

次男は木のおうち

三男はれんがのおうち

そこからおおかみとのやりとり。おうちを吹き飛ばされて、おおかみは次のうちに逃げていくこぶたを捕まえる遊びだが、遊びの中で楽しめるようにはじめは捕まえずに行う。

おおかみの攻撃方法を考えていく

↓

子ども同士のコミュニケーションが生まれていくことで、一緒につくり上げ楽しむ気持ちにつながる。

③「三匹のやぎのがらがらどん」

この遊びの中で、人気の役、不人気の役を考えていく

予想：1位 大やぎ 2位 トロル
 3位 小やぎ 4位 中やぎ
 実際の答え

1位 大やぎ 2位 トロル
 3位 小やぎ 4位 中やぎ

どうして中やぎが人気がないのか。

大やぎは勇ましく、強いイメージ。小やぎはかわいいイメージ。トロルは特徴が強い。

子どもにとって特徴があることは魅力的である。中やぎは特徴が少ないために人気もない。劇を行うためには中やぎの役も大切になるため、子どもにとって無理にその役をさせるのではなく、中やぎにセリフを作ったり、特徴を作る。例えば魅力のセリフや動きをつけていくことが必要である。

また、トロルを遊びの中で新聞で作り、やっつける時にやぶいていく。ゴミの片付けをしていくことで、水に流せないゴミはどうか、どう処理するか、そのような地域のこと、周りのことをかんがえていけるようにしみこませていくことも大切。

→劇ごっこからの広がりを持たせることも考える。

【劇をつくる】

3つのグループを作り、青、赤、緑それぞれの布を使った簡単な劇遊びを行う。
 (相談時間は15分)

布の使い方も考えていく。揺らしたり動きをつける、背景に使うなど各グループ考えていく。

「赤」の布のグループ—題名「太陽のない街」

物語

主人公の2人、太陽が隠れてしまい、光がなく寒がっている。赤い布を太陽に見立て、太陽がどんどん大きくなる。どんどん大きくなり、太陽が戻り、明るさ温かさが戻る。

評価

赤の布を太陽に見立て、話はどんどん広がって太陽が大きくなっていくことで広がりを持たせている。

子どもにどう演じさせるかがポイント！

「青」グループ—題名「漁師より地引網」

物語

魚を捕まえる地引網、繰返し地引網を使っていき、魚を捕まえるが、魚も捕まらないと必死になる。魚は捕まらないよう網を潜り抜けるが、最後はすべて捕まり、勢いで漁師も捕まってしまう。

評価

魚、漁師は人が手をつなぎ表していて、網と共に波の動きを青い布で表している。この劇は年長さんに演じさせることができる。

最後の終わり方が、捕まった漁師も助けたり、「一緒に暮らそう」など仲良く HAPPY END だとよい。

「緑」グループ—題名「もりのくまさん」
ミュージカル

物語

森のくまさんの歌に合わせて、それぞれの登場人物を動きをつけてミュージカルとして行う。

評価

森や布を使って表現し、おじょうさん、くまや花を登場人物として演じているが、くまはくまらしい動きを研究する。また、この中で花の役が子どもにとって特徴のない役として魅力的に思えなくなるため、花の演じ方、特徴を作っていくとよい。

劇を作って、教師たちも演じる楽しさを感じる体験となる。また、ひとつの布で様々な話の

研修会

広がりが見られた。

【子どものやりやすいもの、なりやすい役、劇】

天然現象—雨、稲妻、風、火、火山、波、海、砂、
地震、泥地

動物、海の生き物（くらげ、たこ、いか、
うみへび、ひとでなど）

昆虫、鳥

超自然—魔女、ゆうれい、おばけ、ようせい、
ロボット、宇宙人、忍者

動作—スポーツの動き、職業（警官、看護婦、
パイロット、先生）

坂を登る、下る、自転車をこぐ

→子どもと行ってみて、いろいろなことを劇遊
びを通して取り入れる。

劇遊び—「はらぺこあおむし」「赤ずきん」

「3びきのやぎのがらがらどん」

【劇遊びの中で育つもの】

- * 自己表出
- * 自己表現
- * 欲求の解消
- * 協力、協同
- * 友だちとの交わりを役割の中でする
- * 言葉と行動の合致
- * 役割をし遂げる成就感
- * 言語の具体的な獲得
- * 約束やルールを楽しみながら守る
- * いろいろなものになる喜び
- * お話を再現して楽しむ
- * 考える力、創造性、想像性、感性
→この経験から人に対する思いやりも育ち、
自分の意見もきちんと言える。このことが
子どもの自主性を育てる。
保育者も心の柔軟性、人にすっと入ってい
ける。子どもの持っているものをひっぱる
こと、これが教育であり、子どもは環境で
育っていく。